

筆者たちが大学生の頃、環境経済学のテキストが出はじめました。それらのテキストで勉強して、環境経済学のおもしろさや魅力を感じ、環境と経済とのかわり、環境問題・環境政策をこれまで学んできました。

また、地域という「現場」にも出向き、現場にかかわっている人たちと出会ってきました。それらの出会いを通して、テキストだけでは味わえない現場の「楽しさ」や、テキストによる学びだけでは通用しない現場の「難しさ」を感じてきました。

このような地域という現場の息吹を、読者のみなさんにも伝えたい。そして、「現場の宝庫」である地域から、環境と経済を考えるきっかけにしてほしい。この本は、そのような願いを込めて書きました。地域という現場は絶えず変化しています。テーマとの関係から書くことができなかつた、見方や考え方もあります。この本で足りないことについては、読者のみなさんで補っていただければ幸いです。

こうして、この本がみなさんの前に届くまでには、いろいろな方々にお世話になりました。筆者たちが学恩を受けてきた宮本憲一先生、植田和弘先生、寺西俊一先生。企画を後押ししてくださった諸富徹先生。この本の編集担当者として、筆者たちと「三人四脚」で歩んでいただいた有斐閣・書籍編集第2部の長谷川絵里さん。そして、各章のイラストをいきいきと描いていただいた、「もう1人の著者」である同・営業部の平紘子さん。そのほか、これまでお世話になった多くの方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

最後に、地域という現場で汗を流し、考え、悩み、それでもアクションを起こし続けている、すべての方々に敬意を表します。この本が、それらの地域の方々と読者のみなさんとの間を、少しでもよい形で近づけることができれば、これ以上にうれしいことはありません。

2019年1月

八木信一・関 耕平

著者紹介

やつき しんいち
八木 信一

序章, 第1章, 第5章, 第7~10章, Column ⑤



1973年生まれ、佐賀県大和町（現佐賀市）育ち。佐世保高専・横浜国立大学卒業。京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、博士（経済学）。現在、九州大学大学院経済学研究院教授。

〈おもな著作〉

『廃棄物の行財政システム』有斐閣、2004年（平成17年度廃棄物学会〔現廃棄物資源循環学会〕著作賞）、『日本財政の現代史Ⅱ』（分担執筆）有斐閣、2014年、『再生可能エネルギーと地域再生』（分担執筆）日本評論社、2015年、『テキストブック現代財政学』（分担執筆）有斐閣、2016年ほか。

●読者へのメッセージ●

私たちは、「ゆりかごから墓場まで」の間に、いくつかの地域との出会いがあります。また、今日ではさまざまなツールを使って、国内外のいろいろな地域と出会うこともできます。ゆえに、地域とは出会うものであるといえるのではないのでしょうか。「環境と経済」を題材としたこの本が、そのような地域との新たな出会いの1つになることができれば、うれしいです。

せき こう へい
関 耕平

第2~4章, 第6章, Column ①（共著）



1978年生まれ、秋田県鹿角市育ち。岩手大学卒業。一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、博士（経済学）。現在、鳥根大学法文学部准教授。

〈おもな著作〉

『公私分担と公共政策』（分担執筆）日本経済評論社、2008年、『Basic 地方財政論』（分担執筆）有斐閣、2013年、『岐路に立つ震災復興』（分担執筆）東京大学出版会、2016年、『三江線の過去・現在・未来』（共著）今井印刷、2017年ほか。

●読者へのメッセージ●

みなさんが今後、地域へ出かけて行き、そこで見聞きする何気ない出来事を通して、ものごとの本質を感じてハッとすると、そんな瞬間が増えることを願ってこの本を書きました。ところで、私は、そのオトボケぶりも含めて、ゲンバくんが自分のように思えてなりません（この本を書くなかで、彼のように成長できたか自信はないですが）。この本で学ぶことによって、みなさんがゲンバくん以上に成長できるよう願っています。

目次

はしがき	—————	i
著者紹介	—————	ii
各章の構成	—————	xi
本書に登場するおもな事例	—————	xiv

CHAPTER

0

地域から考えるために 1

現場からの見取り図

- 1 1 テーマと出会う …………… 2
——テーマは現場にある！
- 2 2 テーマを理解する …………… 4
——「現場の宝庫」としての地域
テーマ、それが始まり (4) 書を持って、現場へ出よう (5)
ごみ収集車に乗った経済学者 (5) 地域という現場をつかむ
(6) この本の見取り図を得よう (8)

CHAPTER

1

環境と経済をつかむ 11

「価格のつかない価値物」のとらえ方

- 1 1 1 テーマと出会う …………… 12
——環境か、それとも経済か、あるいは……
- 2 2 2 テーマを理解する …………… 14
——環境経済学への入り口
環境とは何か (14) 環境問題とは何か (15) なぜ環境問題
が起こるのか①：市場の失敗 (16) なぜ環境問題が起こるの
か②：政府の失敗 (18) なぜ環境問題が起こるのか③：共同
体の失敗 (19) 環境政策のとらえ方 (19) 環境政策をとら
える①：政策目的 (20) 環境政策をとらえる②：政策手段
(22) 環境政策をとらえる③：政策主体 (23)

- 1 テーマと出会う 28
— 公害被害に思いをはせて
- 2 テーマを理解する 29
— 公害被害と向き合う
なぜ公害を学ぶのか (29) 足尾鉍毒事件を知る (30) なぜ公害被害は悪化していったのか (32) 四大公害とは何か (33) 水俣病の発生とその被害 (34) 償いきれない公害被害と遅れる被害救済 (35) 福島原発事故がもたらした公害被害 (36) 公害被害地域の今 (38)
- 3 テーマを考える 40
— 公害をどう乗り越えるのか
公害の被害構造をとらえる (40) 企業による地域支配がもたらした公害 (42) 公害被害を深刻にした政府の失敗 (42) 公害を招いてきた地域開発の姿 (44) 地域から始まった公害対策 (45) 環境再生のまちづくりに向けて (46)

- 1 テーマと出会う 50
— ごみを減らすためには?
- 2 テーマを理解する 51
— 廃棄物問題をどうとらえるのか
「とるに足らない」ものが廃棄物問題に (51) 物質フローから見える廃棄物問題 (52) 2つの廃棄物 (54) 移動する廃棄物がもたらした地域間の対立: 2つのゴミ戦争 (55) 不法投棄はなぜ防げなかったのか: 豊島不法投棄事件 (56) 「あとしまつ」重視から3Rへ (58) 地域から循環型社会をつくる: エコタウン事業と生ごみの堆肥化の事例 (59)
- 3 テーマを考える 61
— 循環型社会をどうつくるのか
物質代謝の行きづまり (61) グッズからバズへ (63) バ

ZZの取引がもたらす不法投棄(64) 不法投棄のコストは誰が負担するのか(65) 大量廃棄社会は克服できるのか(66) 循環型社会に向けて私たちができること(67)

CHAPTER 4

農が育む環境

71

農村を持続可能にすること

- 1 テーマと出会う 72
— どうなる、農村のこれから
- 2 テーマを理解する 74
— 苦しくも踏んばる農村の今
「いのちの営み」の現場としての農村(74) 3つの空洞化に直面する農村(75) 農村は本当にいらぬのか(78) 持続可能な農村へ①:有機農業のまちづくりに取り組む宮崎県綾町(79) 持続可能な農村へ②:「地域のための企業」としての吉田ふるさと村(80) 持続可能な農村へ③:環境保全型農業といきものブランド米(82)
- 3 テーマを考える 83
— 持続可能な農村を実現するために
公共事業に依存してきた農村(83) 農村の内発的發展をどう実現するのか(83) 六次産業化で地域内経済循環を高める(85) 農村が支える国土保全(86) 農村が支える生物多様性(87) 農の多面的機能をどう守るのか(88) 農村の發展を担うのは誰なのか(89) 都市と農村の共生へ向けて(91)

CHAPTER 5

みんなの資源を守るのか

95

あなたの身近なコモンズ

- 1 テーマと出会う 96
— 勝手にとってはいけません!
- 2 テーマを理解する 98
— みんなの資源のとらえ方
わたしの資源とみんなの資源(98) 勝手にとってはいけない、みんなの資源もある(98) ところ変われば、かかわり方も違う:白神山地の事例(99) 政府がなくなってきた、みんなの資源(101) みんなの資源を広げる試み(103)

3	テーマを考える	106
	— 悲劇を乗り越えるために	
	私的財と公共財 (106) 2つのコモンズ (107) コモンズの悲劇 (108) なぜコモンズの悲劇は起こるのか (109) なぜコモンズは残ったのか：オストロムの条件 (111) 地域資源としてのコモンズのとらえ方 (112) コモンズの再生へ向けて (113)	

CHAPTER
6

エネルギー自治を求めて

117

地域でつくる再生可能エネルギー

1	テーマと出会う	118
	— エネルギー資源に恵まれた農村	
2	テーマを理解する	120
	— 地域を左右するエネルギーのあり方	
	エネルギーとは何か (120) エネルギー資源の移り変わりと地域への影響 (120) エネルギーと地域①：青森県六ヶ所村から問う核と原子力 (122) エネルギーと地域②：北海道下川町によるエネルギー自給への挑戦 (125)	
3	テーマを考える	128
	— エネルギー自治で地域再生を	
	枯渇性エネルギーと再生可能エネルギー (128) エネルギー自治とは何か (129) 国や電力会社はどのようにして原発を推進するのか (130) 原発は安上がりなのか (131) 原発立地地域の経済と電源三法交付金 (132) エネルギー自治を阻む原発マネー (134) 再生可能エネルギーによる地域再生 (134) エネルギー自治のこれから (136)	

CHAPTER
7

まちづくりとアメニティ

139

景観を守ること・創ること

1	テーマと出会う	140
	— あの街、この町、「まち」とは何？	

②	テーマを理解する	142
	— 景観まちづくりの歴史と現場	
	「まち」を「つくる」(142) 開発の波の中で失われた景観(143) 景観訴訟から景観条例・景観法へ(144) 条例による景観まちづくり：京都市の事例(144) 景観まちづくりの新たな展開：トレード・オフからサステイナブルへ(148) まちづくりの土台としての学習：長野県飯田市の事例(149)	
③	テーマを考える	150
	— アメニティの経済学	
	アメニティとは何か(150) アメニティをめぐる問題：混雑現象と土地問題(151) ストックとしてのアメニティ(152) アメニティがもたらす価値と環境評価(153) 地域ブランドがつなぐ価値(155) 社会的価値の認識と学習の役割(157)	

CHAPTER
8

グローバルとローカルをつなぐ

161

地域からの持続可能な発展

①	テーマと出会う	162
	— “Think globally, Act locally”	
②	テーマを理解する	164
	— 地球と地域との接点を探る	
	気候変動の問題化(164) 2℃目標と2つの対策(165) 世界の主要都市における気候変動対策の特徴(167) 東京都による地域版キャップ・アンド・トレードへの挑戦(169) 東京オリンピックのメダルはリサイクルで(170) 国境を越えるリサイクル資源(171) 中国の都市におけるリサイクルの実際(172)	
③	テーマを考える	174
	— 持続可能な発展の経済学	
	持続可能な発展とは何か(174) 2つの持続可能性(175) 包括的富とは何か(177) 包括的富を比較する(178) 持続可能な発展へ向けた環境政策統合(179) なぜポリシー・ミックスが起こるのか(180) グローバルとローカルをつなぐ制度(182)	

インフラを造り替える

187

未来への投資

- 1 テーマと出会う 188
—インフラがフラフラに
- 2 テーマを理解する 190
—インフラのこれまでとこれから
いろいろなインフラ (190) 日本におけるインフラ整備の歴史 (190) インフラをめぐる危機 (193) インフラを造り替える①：コンパクト・シティへの取り組み (194) インフラを造り替える②：スマート・シティへの取り組み (196)
- 3 テーマを考える 199
—持続可能なインフラへ向けて
費用便益 (効果) 分析の考え方 (199) コミュニケーションとしての環境アセスメント (200) 公共事業の公共性 (202) ハードとソフト (204) フォアキャスティングからバックキャスティングへ (205)

ガバメントからガバナンスへ

209

みんなでアクション

- 1 テーマと出会う 210
—卒業してからの現場
- 2 テーマを理解する 212
—ガバナンスの現場を歩く
「ガバナンス」で振り返る (212) ガバメントからガバナンスへ：埼玉県における見沼田圃保全の事例 (213) ガバナンスも変わる：熊本地域における地下水保全の事例 (216) ガバナンスにおける市場の役割：森林認証制度を通して (218)
- 3 テーマを考える 220
—環境ガバナンス論
ガバナンスが求められている「厄介な問題」(220) 環境問題も厄介な問題に (222) 環境ガバナンスとは何か (223) ガバナンスにおける3つのモード (223) ガバナンスの歴史を

引用・参考文献	231
事項索引	239
地名索引	245
人名索引	246

Column ● コラム一覧

① 私たちの「はじめての現場」	6
② 地域からつくられてきた環境税	24
③ 基地がもたらす公害	37
④ 「不滅の廃棄物」との格闘が始まる	68
⑤ 農と福祉がつながる時代へ	88
⑥ アンチ・コモنزの悲劇	110
⑦ エネルギー貧困	137
⑧ なぜ景観条例は広まったのか	146
⑨ MDGs と SDGs	182
⑩ インフラ輸出の可能性と課題	197
⑪ 「ガバナンスの時代」における仕事像	226

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

章扉写真クレジット一覧

- 序 章 ● AFP = 時事
- 第 1 章 ● AFP = 時事
- 第 2 章 ● 桑原史成氏撮影
- 第 3 章 ● 廃棄物対策豊島住民会議提供
- 第 4 章 ● 鳥根県観光連盟提供
- 第 5 章 ● 嶋田大作氏提供
- 第 6 章 ● 左：筆者撮影、右：鳥取県北栄町役場提供
- 第 7 章 ● 筆者撮影
- 第 8 章 ● dpa/時事通信フォト
- 第 9 章 ● 筆者撮影
- 第 10 章 ● 見沼田んぼ福祉農園提供

各章の構成

この本では、読者のみなさんが自分で、あるいはいろいろな仲間たちと一緒に、地域から環境と経済を考えることができるよう、各章で以下のような工夫を施しています。

●写真とKEY WORDS (章扉)

各章の扉には、内容に関する写真と、各章のKEY WORDSをのせています。各章の中のどこに関係する写真なのか、またなぜそれらのキーワードが重要なかを意識しながら読んでみてください。キーワードは、本文中の初出あるいは定義してあるところで、ゴシック体(太字)になっています。なお、他の章のキーワードが出てくる場合もあります。その場合は、それらのキーワードの横に◎をつけています。

●テーマと出会う(第1節)

各章にはテーマがあります。まずは、それらのテーマと出会うところから、すべての章が始まります。この本では、大学生が体験するようなシチュエーションを踏まえ、会話を通してそれぞれのテーマと出会うことにしています。会話に登場するのは、ゲンバくん、チイキさん、そしてぼっぼー先生です。



ゲンバくん

田舎育ちで、のびのびした性格。文武両道を「自称」するも単位はぎりぎり、体育会系のサークルも最近はさぼりがち。語学の授業で知り合ったチイキさんに、いろいろと助けられる。ぼっぼー先生の授業で、はたして変わるのか？



チイキさん

都会育ちで、ハキハキした性格。成績も優秀で、ゲンバくんをはじめ、同級生から頼られる存在。都会にはない魅力を求めて、田舎のことについても関心がある。会話の中では、ゲンバくんとぼっぼー先生との間で

「つなぎ役」をすることも、たびたび。



ぼっぼー先生

有斐閣公式キャラクター、ろけつとぼっぼーが「先生」として登場！ この本では、「環境と経済」に関する授業を担当している大学教員。研究でも、また教育でも、数多くの現場に足を踏み入れてきた、ぼっぼー先生。その経験を余すところなく、ゲンバくんやチイキさんに伝えます。

会話の内容は、**POINT** にまとめていますので、参考にしてください。

●テーマを理解する（第2節）

テーマと出合った後は、それぞれのテーマを理解することへと移ります。ここでは、テーマに沿った環境と経済とのかかわり、環境問題・環境政策について、地域におけるさまざまな事例や、それらの事例に関係する仕組みやデータなどを通して、理解を深めていきます。筆者たちがこれまでに足を運んだ地域はもちろんのこと、まだ足を運んでいない地域についても、引用・参考文献で示している本や論文などをもとに取り上げています。そして、みなさんも**WORK**で、地域における事例や、それらに関係する仕組みやデータなどを調べてみてください（なお、序章と第1章は他の章と構成が異なるので、内容が少し違います）。

●テーマを考える（第3節）

最後は、テーマについてより深く考えていきます。ここでは、「テーマを理解する」で取り上げた内容について、環境経済学、環境政策論、およびこれらに関連する授業で提供されている「見方や考え方」からとらえ直すことで、地域から環境と経済を考えていきます。そのうえで**THINK**では、みなさんにもテーマに関する「定まった答えのない」問いを考えてもらいます（なお、序章と第1章では設けていません）。

●Column

各章の内容に関係するけれども、そこには盛り込めなかった話題を取り上げています。それらは、授業では「雑談」にあたるものかもしれません。しかし、雑談が最も印象深かったという学生（あるいは卒業生）の方も多いと思いますので、決して手抜きはしていません。リラックスして読んでみてください。

●さらに学びたい人のために

各章の内容に関係した読書案内です。これらの本の中には、残念ながら今では書店にはないもの（いわゆる「絶版」）もあります。それらについては、ぜひ図書館や古本屋へ出向いて、探してみてください。そのことも、地域という現場に足を踏み入れるきっかけの1つになるでしょう。

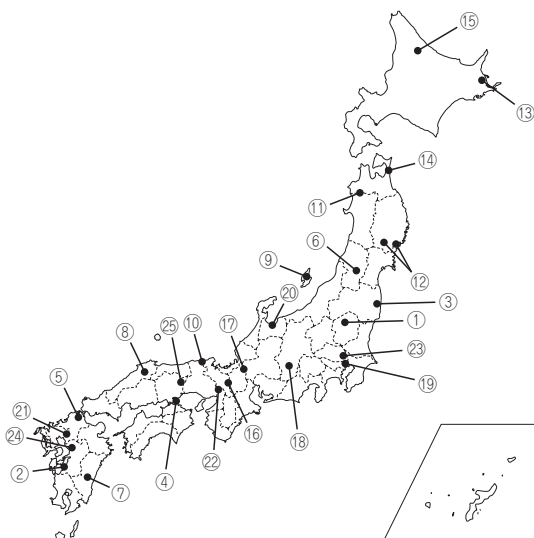
●ウェブサポート

この本に関する補足情報を、有斐閣ホームページに掲載していきます。

http://www.yuhikaku.co.jp/static/studia_ws/index.html

本書に登場するおもな事例（ただし、序章と第1章を除く）

第2章	① 足尾鉾毒事件	栃木県足尾町（現日光市）
	② 水俣病	熊本県水俣市
	③ 福島原発事故	福島県
第3章	④ 豊島不法投棄事件	香川県土庄町豊島
	⑤ エコタウン事業	福岡県北九州市
	⑥ 生ごみ堆肥化	山形県山形市
第4章	⑦ 有機農業によるまちづくり	宮城県綾町
	⑧ 六次産業化	島根県吉田村（現雲南市）
	⑨ いきものブランド米	新潟県佐渡市
	⑩ いきものブランド米	兵庫県豊岡市
第5章	⑪ 入山規制をめぐる争い	青森県・秋田県（白神山地周辺）
	⑫ 「森は海の恋人」運動	宮城県唐桑町（現気仙沼市）・ 岩手県空根村（現一関市）
	⑬ 漁民の森運動	北海道別海町
第6章	⑭ 核燃料サイクル施設	青森県六ヶ所村
	⑮ バイオマスエネルギーの活用	北海道下川町
第7章	⑯ 景観条例によるまちづくり	京都府京都市
	⑰ まちづくりの担い手・組織づくり	滋賀県長浜市
	⑱ まちづくりの担い手・組織づくり	長野県飯田市
第8章	⑲ 地域版キャップ・アンド・トレード	東京都
第9章	⑳ コンパクト・シティへの取り組み	富山県富山市
	㉑ スマート・シティへの取り組み	福岡県みやま市
	㉒ 大阪空港公害訴訟	大阪府豊中市・大阪府池田市・ 兵庫県伊丹市など
第10章	㉓ 見沼田圃の保全	埼玉県さいたま市・川口市
	㉔ 地下水の保全	熊本県熊本市など（熊本地域）
	㉕ 森林認証制度の活用	岡山県西粟倉村



地域から考えるために

現場からの見取り図



リサイクルできるプラスチック製容器を回収する収集車。このような日常も、地域から考えるための現場の1つです。(東京都葛飾区, 2018年)

KEY WORDS

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 現場 | <input type="checkbox"/> 多様性 |
| <input type="checkbox"/> 現場主義 | <input type="checkbox"/> 総合性 |
| <input type="checkbox"/> 地域 | <input type="checkbox"/> 開放性 |
| <input type="checkbox"/> 都市と農村 | <input type="checkbox"/> 重層性 |
| <input type="checkbox"/> 固有性 | |

1 テーマと出会う

III テーマは現場にある！



今日の授業は、これでおしまい！ 試合も近いからサークルに少し顔でも出して、それからバイトにかけ込もうかな。



ゲンバくん、お疲れさま！ ところで、前回の授業で、ぼっぼー先生がレポートで成績評価をするって言ってたけど、準備は進んでるかな？



レポートって何？ まったく記憶にないんだけど？ でも、チキさんは着々と準備しているんだよね。テーマは何にしたの？



ぼっぼー先生が、レポートのテーマは必ず自分で決めなさいと言ってたから、教えないよ！



厳しいな～。とりあえずネットで探してみるか……。ぼっぼー先生の授業は「環境と経済」だから、関係するキーワードを適当に入れよっ



と。



それだといろんな情報が出てきて、かえって迷わないかな？ 新聞の記事や授業でぼっぼー先生が紹介していた本なら、今注目されていることや、授業に関連した情報が得られるかもね。



そういう活字系、あんまり得意じゃないんだよね。体育会系のサークルだから、スッと入ってこないんだよ……。



体育会系にしては居眠り多くて、体力ないよね？ あっ、ぼっぼー先生だ。こんにちは！



はい、こんにちは！



今、ゲンバくんと、先生の授業のレポートについて話していたんですよ。いいテーマがなかなか浮かばないとかで。



確かに、授業も、新聞も、本も、ネットも、それぞれ環境と経済について知るにはいいけど、あまりピンとこないかもしれないね。そういうときには……。



そういうときには……？



「事件は会議室で起きているんじゃない！ 現場で起きているんだ!!」。そう、現場から考えてみるというのも、いいと思うよ。



なるほど、現場かあ！



ぼっぼー先生、そのフレーズで年齢わかっちゃいますよね……。

POINT

- 授業中の居眠りによって、ときにレポートの課題が出されたことさえ気づかないことがありますので、注意しましょう。
- レポートのテーマを見つけるための方法はいろいろありますが、現場から考えることも1つの方法です。

2 テーマを理解する

III 「現場の宝庫」としての地域

I テーマ、それが始まり

みなさんは、筆者たちが研究者として最初に取り上げたテーマについて、興味はありませんか。じつは、2人とも「ごみ」がテーマだったのです。このことが生まれも育ちも違う筆者たちを近づけ、この本を一緒に書くきっかけになりました。

筆者たちがごみについて研究を始めた1990年代は、不法投棄やリサイクルについて、世の中の関心が高まっていました。テレビのニュースや新聞の記事で取り上げられることも多かったのです。このようなマスメディアの情報に触れることは、大学生のみなさんがレポートや論文のテーマを決めるきっかけの1つになるでしょう。

また、みなさんの中には、大学に入学するまでに、ごみ処理施設へ見学に行った人もいでしょう。これまでに出了された宿題の中で、ごみのことを調べた人もいでしょう。これらの施設見学や宿題も、ごみについて興味や関心を高めるきっかけになるかもしれません。

マスメディアの情報も、施設見学も、そして宿題も、いずれも他の人から与えられたものです。ですから、最初は「またかあ」と思った人も少なくはないでしょう。けれども、きっかけは他の人から与えられたものであっても、それらの機会に接する中で、自分でもっと知りたい、自分でもっと学びたいという

意欲を持つようになった人もいるのではないのでしょうか。筆者たちも、他の人から与えられながら、また自分でも意欲を持ちながら、いろいろなテーマと出会い、これまで研究を続けてきました。

「書を持って、現場へ出よう」

それでは、自分で知りたい、自分で学びたいという意欲を持つためには、どうすればよいのでしょうか。もちろん、本もそのための大切なきっかけです。しかし、ごみなどの環境にかかわるテーマは、それらのテーマに関係する自然、ヒト、モノ、そしてそれらが存在する場所である現場との出会いが、本と同じくらいとても重要であると、私たちは考えます。

『書を捨てよ、町へ出よう』は、劇作家・寺山修司の本のタイトルです。しかし、本をしっかりと読んで多くのことを知っていれば、現場へ出たときに多くのことを感じて、学ぶことができるのではないのでしょうか。また、現場で学ぶ経験を持つことによって、本を読んだときにより深く理解できるのではないのでしょうか。筆者たちは本との出会いも、また現場との出会いも、ともに大切にしたいと考えます。ですから、みなさんにこの本を通して、「書を持って、現場へ出よう」と呼びかけたいのです。

「ごみ収集車に乗った経済学者」

筆者たちは、ごみなどの環境にかかわるテーマを、経済学という学問から取り上げてきました。その学問を、環境経済学といいます。日本における環境経済学の始まりは、第二次世界大戦後に起こった公害の研究です。

公害に直面したとき、経済学者はどうしたのでしょうか。公害に関する情報も限られていた時代でしたので、彼らは現場へ出向き、公害がもたらした被害の実態を把握することから始めたのです。そこには、新しい問題やテーマに直面したときはまず現場へ出向くという、**現場主義**を垣間見ることができます。

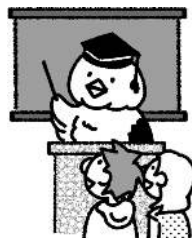
このような現場主義を、ごみという環境にかかわるテーマで見せてくれた経済学者に、はなやまのぶ華山謙がいます。なんと、彼はごみ収集車に乗って、ごみ問題を自分なりに把握しようとしたのです。第3章でも触れるように、当時、東京都は「東京ゴミ戦争」といわれるほど、深刻なごみ問題に直面していました。

Column ① 私たちの「はじめての現場」

自分が知らない現場へ出向くことは、勇気がいるし、緊張もします。はじめての現場であれば、なおさらのことです。だからこそ、今でも覚えているのかも知れません。

筆者（八木）は、関西圏にある、とあるごみ処理施設へ出向きました。このような施設は街のはずれにあることが多いのですが、そこも例外ではありませんでした。最寄り駅から地図を片手にテクテクと歩き、緊張しながら担当の方とやりとりをしました。後日、調査の結果をまとめたものに対していただいたお礼の手紙は、はじめて現場へ出向いた証しとして、今でも大切に持っています。

また、筆者（関）は、第3章でも取り上げる青森・岩手県境不法投棄事件の現場に入りました。県の担当者をお願いしてようやく立ち立ったその現場は、黒ずんだ水が溜まってできた池のようなものがあちこちにあり、強烈な臭いが立ちこめていました。このときの経験が、ごみ問題を地域という現場から考え続けている原点となっています。



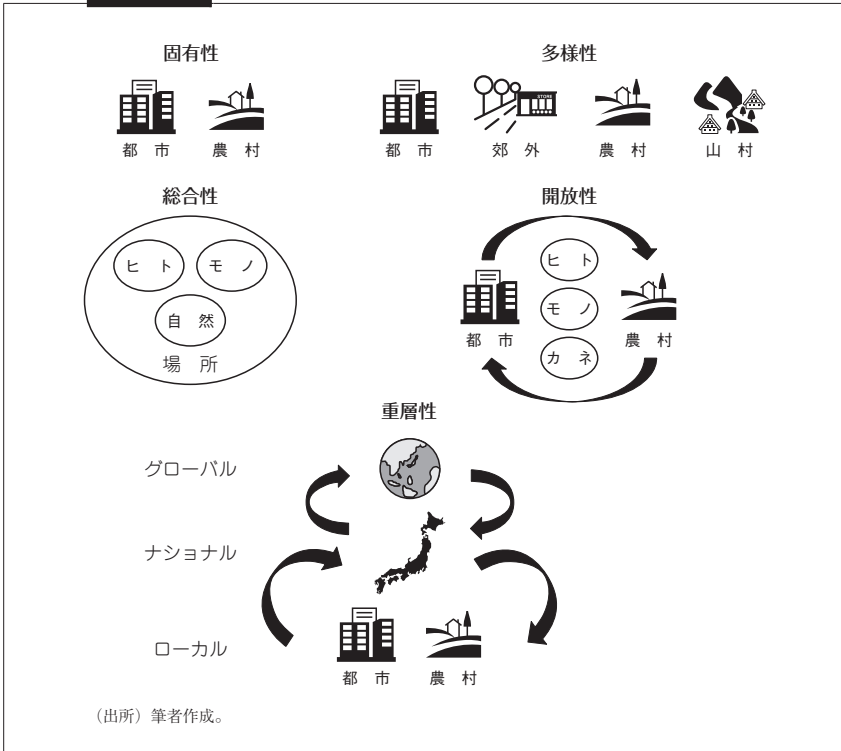
その中で、華山は3日間にわたって、それぞれタイプの異なるごみ収集車に乗り、作業を手伝い、作業員たちと語り合いながら、ごみ処理にかかる料金が妥当なのかなどの経済にも関係するテーマを見つけ、考え、そして自らの意見を示しました。

「地域という現場をつかむ」

ごみ収集は、環境と経済とのかかわりが見出せる1つの現場ですが、そのような現場が数多くあるのが地域です。つまり、地域は「現場の宝庫」なのです。それでは、なぜ地域は現場の宝庫なのでしょう。このことを、地域の特徴から探っていきます。

ところで、地域に関する言葉として都市と農村があります。みなさんは、都市で生まれ、育ちましたか。それとも、農村で生まれ、育ちましたか。生まれと育ちのいずれかで、都市と農村をともに経験した人もいます。

CHART 図序.1 地域が備える5つの特徴



このうち、都市と呼ばれるところに対しては、人がたくさんいて、高い建物も多く、鉄道やバスなども頻繁に動いているイメージを持つでしょう。他方で、農村と呼ばれるところに対しては、自然が豊かで、新鮮な食べ物が身近にあり、昔ながらの人づきあいもまだ残っているイメージを持つのではないのでしょうか。このように、都市と農村はともに地域という言葉で表されますが、それぞれの特徴が異なります。このことを**固有性**といいます。

このように固有性があることに加えて、地域の数が多くなればなるほど、さまざまな特徴を持った地域が存在することになります。先ほど述べたような都市や農村のイメージはあくまでも平均的なものですが、比べる地域の数が多くなるにつれて、都市と農村の姿はそれぞれバラエティ豊かになっていきます。このことを**多様性**といいます。また、地域の分け方には都市や農村だけでなく、

都市に近いけれども、生活において自動車が欠かせない地域である郊外や、東京や大阪などの大都市とは異なった、都市と農村とが混在している地域である地方もあります。

さて、地域は自然、ヒト、モノ、そしてそれらが存在する場所が一体となって形づくられています。このことを**総合性**といいます。これまでの経済学は、この中で経済活動にかかわるヒトやモノを切り取ったうえで、いろいろなことを分析してきました。そのため、総合性を取り扱うことは、どちらかといえば不得意でした。しかし、この本ではこのような総合性も大切にしていきます。

また都市と農村は、それぞれが閉じた形で存在しているわけではありません。山から川、そして海へと至る水の循環を例とした環境においても、都市と農村との間でのヒト、モノ、カネの移動を例とした経済においても、都市と農村は互いにかかわりあひながら存在しています。これを**開放性**といいます。

最後に、経済のグローバル化が、国だけでなく、都市や農村にも関係していることに注目します。この本でも取り上げる、地球温暖化や有害廃棄物の越境移動などを例とした地球環境問題は、環境と経済とのかかわりが地球を対象としたグローバルな空間で現れていることを、私たちに教えてくれます。さらに重要なことは、このようなグローバルなことと、都市や農村を含んだ国というナショナルなこと、さらに都市や農村にかかわるローカルなこと、これらが相互に関係を持ってきていることです。このことを**重層性**といいます。

固有性、多様性、総合性、開放性、そして重層性。これらの特徴を、**図序.1**にまとめておきました。地域が現場の宝庫なのは、環境と経済とのかかわりにおいて、地域がこれらの特徴に満ちあふれているからなのです。

この本の見取り図を得よう

みなさんがこの本を読み、現場の宝庫である地域へ出向き、そして地域から環境と経済を考えていくことを、筆者たちは期待しています。そこに至るまでの道のりは、今のところは果てしないように思うかもしれません。でも、大丈夫。途中で寄り道をしたり、また迷い道に入り込んだりしてもいいように、この本の大まかな流れを見取り図として示しておきます。

まずこの序章では、地域という現場から環境と経済とのかかわりを考えてい

きましようという、筆者たちの「気持ち」を伝えました。次の第1章では、環境と経済とのかかわりを理解するための「ツール」を、みなさんに提供していきます。そして第2章からは、地域から環境と経済を考えるための具体的なテーマに入っていきます。

第2章では「公害」、第3章では「ごみ」を取り上げます。これらのテーマは、いずれも日本の環境問題において欠かせないものであり、また今に至っても問題の現場が地域に存在しています。

第4章では「農」を、第5章では「コモンズ」を取り上げます。これらの章では、自然が育む環境や資源を用いながら、生産や生活を営んでいる地域を取り上げますが、過疎化や人口減少が進む中で厳しい状況にある、農村のこれからにもかかわるテーマです。

第6章では「エネルギー」、第7章では「まちづくり」を取り上げます。いずれも経済だけでなく、私たちの地域における生活にも深く関係するテーマです。また、これらのテーマは、どのような社会で暮らしたいのかという、私たちの価値観が問われるものでもあります。

第8章では「グローバルな環境問題」、第9章では「インフラ」を取り上げます。これらは私たちのことだけでなく、他の国のことや将来世代のことにも関係する大きなテーマですが、じつはこれらにも地域が深く絡んできます。また、第8章では持続可能な発展など、これ以降の章にもかかわる、近年において注目されている見方や考え方にも触れています。

そして、知って、学んだことを自らのアクションにつなげてもらうために、最後の第10章では「ガバナンス」を取り上げます。ガバナンスは、地域からみんなでアクションを起こすためのキーワードです。

どの章を先に読まないといけないということはありません。さあ、地域という現場から考えるための最初の一步を、思いきって踏み出してみましょう。

WORK

- ① 地域の多様性をつかむために、自分が住んでいる地域におけるごみの分別数について、関心のある他の地域（できれば分別数が多いとされている地域）とあわせて調べて、さらに両者を比較してみよう。
- ② 地域の開放性をつかむために、各都道府県の財貨・サービスの純移出入額を調

べてみよう。

さらに学びたい人のために

Bookguide

宇井純 [1997] 『キミよ歩いて考えろ——ぼくの学問ができるまで』ポプラ社

→水俣病をはじめとした公害に関する研究や調査だけでなく、東京大学で開かれた自主講座「公害原論」でも注目された著者。「歩いて考えろ」というメッセージは、地域という「現場から考える」ことそのものです。

藤井誠一郎 [2018] 『ごみ収集という仕事——清掃車に乗って考えた地方自治』コモンズ

→本文で紹介した華山謙と同じように、しかし華山よりも長い期間にわたって、ごみ収集車に乗って現場から学問を考えた1冊。収集現場の実態だけでなく、収集業務において進んできた委託の現状についても詳しく考察しています。

宮本常一・安溪遊地 [2008] 『調査されるという迷惑——フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

→現場へ出向き、調査をすることが誰のためなのか。また、何のためなのか。「現場から考える」のための姿勢やマナーを整える1冊として、紹介しておきます。



事項索引

*太字の項目は KEY WORDS. 太字の数字は掲出ページです。

● 数字・アルファベット

2°C 目標 165, 177
3R 53, 59
EPR →拡大生産者責任
EU 169, 172, 179
FIT →固定価格買取制度
FSC →森林管理協議会
GATT →関税及び貿易に関する一般協定
GDP →国内総生産
HEMS →ホームエネルギー・マネジメントシステム
IPCC →気候変動に関する政府間パネル
LCA →ライフ・サイクル・アセスメント
LRT →ライト・レール・トランジット
MDGs →ミレニアム開発目標
NGO 227
NPM →ニュー・パブリック・マネジメント
NPO 207, 228
OECD →経済協力開発機構
Recycle →リサイクル
Reduce →リデュース
Reuse →リユース
SDGs →持続可能な開発目標
TPP →環太平洋パートナーシップ協定
WWF →世界自然保護基金

● あ 行

あおぞら財団 →公害地域再生センター
青森・岩手県境不法投棄事件 65
足尾鉍毒事件 30, 42
足尾銅山 30
足尾に緑を育てる会 38
アスベスト(石綿) 30
あとしまつ 58, 66
アメニティ 22, 41, 42, 150
—創造機能 15
—問題 15, 19
安全・安心 81, 85
いきものブランド米 82, 85
イタイイタイ病 33, 39
イタイイタイ病対策協議会(イ対協) 39
いちき串木野電力 198

いのちの営み 74
入会 101
—権 101
—林野 101, 108
入会林野近代化法 103
インセンティブ 225
インフォーマル経済 184
インフラ 22, 44, 83, 98, 136, 167, 175, 179,
190, 205
—輸出 197
—を造り替える 194
インフラ長寿命化基本計画 193
インフラの老朽化 193
ウルグアイ・ラウンド 78
エコタウン事業 38, 59, 68, 173
エコラベル 219
エネルギー 120
—資源 120
—貧困 137
エネルギー基本計画 130
エネルギー自治 130, 134, 136, 196
オイルショック 122, 124
大阪国際空港 202
屋外広告物 147
オストロムの条件 111
お団子と串の都市構造 195, 204
オフセット・クレジット 170
オープン・アクセス 111

● か 行

外貨獲得 85, 135
回収ステーション 173, 184
回収人 173, 184
外部性 17
外部不経済 17
開放性 8
外来型開発 44, 83, 125, 135
顔の見える関係 79, 92, 225
加害と被害 40
価格 17, 78, 82, 225
—のつかない価値物 16
かわり主義 91, 113
学習 89, 157

革新自治体 45
 拡大生産者責任 (EPR) 66, 181
 核燃料サイクル 123
 — 施設 123
 化石燃料 120
 過疎化 57, 75, 122
 家電リサイクル法 170
 金沢市伝統環境保存条例 144
 ガバナンス 25, 68, 114, 137, 213, 215, 224
 ガバナンスの失敗 227
 ガバメントからガバナンスへ 213, 221
 環境 14
 — 汚染問題 15, 62
 — 価値 153
 — 教育 23, 46
 環境アセスメント 23, 200
 戦略的— 180, 202
 環境影響評価法 202
 環境ガバナンス 223
 環境基本法 202
 環境再生のまちづくり 46
 環境税 22, 24, 181
 環境政策 20
 環境政策統合 137, 179, 222
 環境と開発に関する国連会議 (地球サミット)
 174, 227
 環境と開発に関する世界委員会 (ブルントラ
 ント委員会) 174
 環境ネットワークまもと (現くまもと未来ネ
 ット) 217
 環境被害 30, 183
 環境評価 153
 環境保全型農業直接支払交付金制度 89
 環境未来都市 196
 環境モデル都市 38, 196
 環境問題 15, 16, 29, 40, 192, 222
 関係人口 90
 観光 156
 関税及び貿易に関する一般協定 (GATT)
 78
 間接的手段 22, 45, 169, 181
 環太平洋パートナーシップ協定 (TPP) 78
 官民有区分事業 102
 緩和策 166, 167
 企業 66
 企業城下町 42, 125
 気候変動 165, 222
 — 対策 166, 180
 気候変動に関する政府間パネル (IPCC)
 164
 規制緩和 226
 規則 224
 基地公害 37
 基盤的手段 22, 68, 182
 規模の経済 130
 逆選択 64
 逆有償 63
 キャップ・アンド・トレード 169, 182
 競合性 106
 協働 25, 225
 共同体 19, 77, 225
 共同体の失敗 19, 113, 222
 京都議定書 167
 京都市市街地景観条例 (京都市市街地景観整備
 条例) 145
 京都タワー 144
 漁業協同組合 (漁協) 99, 105
 漁業権 99
 漁民の森運動 105, 114
 緊張感ある信頼関係 39
 グッズ 63, 171
 グリーン購入 69
 黒壁 148, 157
 — スクエア 149
 景観 143, 145, 153
 — 訴訟 144
 景観条例 144, 146
 景観法 144, 147
 景観まちづくり 143, 154
 経済協力開発機構 (OECD) 24, 197
 経済的価値 155
 経済的手段 22, 68, 176
 下水道 191
 権威 224
 限界削減費用 20
 限界被害費用 20
 現在世代 175
 顕示選好法 154
 原子力市民委員会 131
 原子力発電所 (原発) 122, 131
 — マネー 134
 — 立地自治体 132, 134
 — 利益共同体 131
 現場 5
 現場主義 5
 郊外 8
 公害 5, 30, 36, 46
 — 国会 45

—裁判 33, 35, 39, 192, 202
 —対策 45
 —被害地域 39
 公害地域再生センター（あおぞら財団） 39,
 46
 公共交通 168, 195
 公共財 17, 107, 190
 公共事業 83, 199
 公共事業の公共性 202, 203
 公権力 24
 耕作放棄地 76
 高度経済成長 52, 75, 143, 225
 コウノトリ 82, 87
 公民館 90, 149, 157
 交流人口 90
 枯渇性エネルギー 128, 130
 枯渇性資源 99, 128
 国土保全 87
 国内総生産（GDP） 174, 177
 国連 177, 182
 小繋事件 103
 固定価格買取制度（FIT） 134, 228
 古都保存法 144
 ごみ 51, 54
 —の有料化 59, 68
 コミュニケーション 60, 201
 コモンズ 107, 111
 コモンズの悲劇 108, 222
 アンチ・—— 110
 固有性 7, 112
 混雑現象 151
 コンパクト・シティ 194
 コンポスト 61
 ● さ 行
 財産区 103
 再生可能エネルギー 128, 135, 166
 再生可能資源 99, 128
 最適汚染水準 20, 21, 174
 サステイナブル 148
 里山 121
 サマーズ・メモ 184
 参加型税制 24
 産業革命 14, 150
 産業廃棄物管理票制度（マニフェスト制度）
 65
 産業廃棄物税 59
 産炭地域 122
 三ちゃん農業 76

産直市 92
 産廃 →廃棄物（産業廃棄物）
 産廃特措法 65
 資源供給機能 15, 62
 自主的取り組み 169, 181
 市場 16, 224
 市場の失敗 18, 64, 107, 130, 218
 市制・町村制 102
 自然資源保全・利用問題 15, 19
 自然資本 175, 178
 クリティカル—— 177
 自然独占 130
 持続可能な開発目標（SDGs） 46, 182, 183
 持続可能な発展 22, 174, 205, 222
 自治 112, 129
 自治体 →地方自治体
 自治体環境政策 45
 失敗3きょうだい 20, 222
 私的財 106
 自動車リサイクル法 59
 下川エネルギー供給協同組合 127
 社会関係資本 158, 205
 社会的価値 25, 80, 88, 157, 177
 社会的弱者 40
 社会的ジレンマ 222
 社会的費用 131
 社会問題 16
 シャドワ・プライス 177
 重層性 8, 222
 住民 45, 60, 129
 主観性 221
 シュレッダーダスト 57
 循環型社会 54, 61, 67
 循環型社会形成推進基本法 58
 小規模農家 78
 小規模分散型エネルギーシステム 134, 137
 条件整備 228
 消費者 66, 68, 92
 情報の非対称性 17, 64
 将来世代 153, 175, 207
 昭和の大合併 103
 食料安全保障 79
 所有権 17, 106, 113
 白神山地 99
 白川 216
 新景観政策 147
 新興国 184
 人工資本 175, 178, 205
 人的資本 175, 178

- 新日本窒素肥料 (チッソ) 34, 42
- 信 頼 225
- 森林環境税 89
- 森林管理協議会 (FSC) 219
- 森林総合産業 126, 135
- ストック 152, 175, 205
- スーパー公務員 150
- スマート・シティ 196
- 生活の質 150, 156
- 政策主体 23
- 政策手段 22, 68, 180, 200
- 政策目的 20, 174
- 生産者 66
- 生態系 76, 122
 - サービス 88
- 生態系サービス支払い 89
- 制 度 136, 182
- 政 府 18, 66
 - の資源 103, 107
- 政府の失敗 18, 24, 44, 131, 202, 216, 226
- 生物多様性 87, 122
- 生物的弱者 40
- 世界自然保護基金 (WWF) 219
- 世代間公平性 175, 176
- 絶対的損失 41, 153
- 先進国 183, 193
 - の都市 168
- 全体性 221
- 総合性 8
- 相互参照 146
- 相反性 221
- 組織づくり 148
- ソニーセミコンダクタ九州 (現ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング) 217
- ソフト 204
- た 行
- ダイオキシン 58
- 大規模集中型エネルギーシステム 130, 134
- 第三セクター 80, 89, 148, 195, 196
- 胎児性水俣病患者 35
- タイト・コモنز 108
- 大量廃棄社会 66
- 縦割り行政 18, 201
- 多様性 7, 112
- 断 熱 135, 137
- 地 域 6, 8, 128, 142
 - 開発 44, 124, 199
 - 環境 156
 - 金融機関 136
 - コミュニティ 19, 77, 142, 156, 190, 225
 - 独占 42
 - のための企業 81
- 地域おこし協力隊 90
- 地域資源 42, 83, 112, 129, 155, 216
- 地域団体商標制度 156
- 地域内経済循環 44, 84, 135
- 地域ブランド 155
- 地下水 216
 - プール 217
- 地球温暖化 164
- 地球温暖化対策計画書制度 169
- 地球環境問題 164
- 地球サミット →環境と開発に関する国連会議
- 地租改正 101
- チッソ →新日本窒素肥料
- 地 方 8
 - 財政 92
 - 自治体 (自治体) 58, 89, 114, 129, 136, 190
 - 分権 227
- 地方環境税 24
- 中間支援組織 228
- 中心市街地 148, 194
- 直接規制 22, 45, 177, 181, 215
- 直接的手段 22, 181
- 子牙循環経済産業区 173
- 強い持続可能性 175, 177
- 鶴岡八幡宮 143
- 定住人口 90
- 出稼ぎ 75, 124
- 適応策 167
- 豊島不法投棄事件 56, 65
- 電気電子機器廃棄物 172
- 電源三法交付金 124, 133
- 電力自由化 136
- 東京オリンピック 170
- 東京ゴミ戦争 5, 56
- 東京都公害防止条例 45
- 動態性 221
- 東北ゴミ戦争 56
- 道 路 191
- 道路特定財源 191
- 都 市 6, 91, 167
 - 計画 168
- 都市鉱山 170
- 都市と農村 6

—の共生 92
途上国 184
—の都市 168
土地の空洞化 76
富山ライトレール 195
トレード・オフ 148, 221

● な 行

内需拡大 192
内発的発展 83, 135
ナショナル・トラスト 143
新潟水俣病 33
西粟倉・森の学校 220
二次的自然 87
日米地位協定 37
日米貿易摩擦問題 192
担い手 89, 136
—づくり 148
日本環境管理基準 37
ニュー・パブリック・マネジメント (NPM)
226
認証制度 219
認定基準 36
ネットワーク 225
農業 74
農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する
法律 89
農 村 7, 78, 83, 91
—のまちづくり 90
農村回帰 90
農の多面的機能 79, 86, 88
野付漁協 105

● は 行

バイオマス 125
廃棄物 52, 54, 58
—政策 58, 67
—の広域移動 56
—問題 52, 58, 62, 67
一般— 54
産業— (産廃) 54, 56
不滅の— 68
廃棄物処理法 54
排出事業者責任 54
排出量取引 22, 169, 181
排除性 106
廃物同化・吸収機能 15, 62
波及効果 85, 126, 132
場 所 14, 151, 156

橋渡し役 217, 228
派生的被害 41
バーゼル条約 172
バックキャスティング 183, 206
バッズ 63, 171
ハード 204
パリ協定 165
バルシステム 105, 114
ヒエラルキー 224
被害救済 35, 39
被害構造 40
東日本大震災 91
非経済的価値 155, 156
ビジョン 180, 206
一坪菜園運動 80, 89
人の空洞化 76
百年の森林構想 220
百年の森林事業 220
費用効果分析 200
費用負担 65, 67
費用便益分析 199
表明選好法 154
開かれた地域主義 91, 113
非利用価値 153, 155
フィードバック 207
フォアキャスティング 206
不確実性 38, 222
福祉農園 88, 215
福島原発事故 32, 36, 68, 122, 131
藤前干潟 202
物質代謝 62
物質フロー 52, 62
不法投棄 56, 64
部落有林野統一政策 102
フリー・ライダー 110
ふるさとの喪失 38
ブルントラント委員会 →環境と開発に関する
世界委員会
フロー 152, 175
分断型社会システム 66
分 別 54, 69
平成の大合併 219
貿易自由化 78
包括的富 177, 178
ホームエネルギー・マネジメントシステム
(HEMS) 198
ポリシー・ミックス 180

● ま 行

- 巻き込まれる力 150
- まち 142
- まちづくり 142, 143
- 町家 152
- 水島地域環境再生財団（みずしま財団） 40, 46
- 三井金属鉱業 39
- 見取り図 8
- 水俣病 34, 40, 42, 44
- 見沼田圃 214, 222
- 見沼田圃公有地化推進事業 215
- 見沼田圃農地転用方針（見沼三原則） 215
- 見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針 215
- みやまスマートエネルギー 196
- 未来への投資 205
- ミレニアム開発目標（MDGs） 182
- 民営化 226
- みんなの資源 98, 100, 103, 107
- むつ小川原開発 124
- むらの空洞化 77
- むらの時間 81
- 明治政府 32, 101
- 明治の大合併 102
- メガソーラー 134
- メタ・ガバナー 228
- メタ・ガバナンス 227
- 木質バイオマス 126
- モード 224
- もやい直し 38
- 「森は海の恋人」運動 103, 114

● や 行

- 厄介な問題 221, 222

- 有害廃棄物の越境移動 172, 182
- 有機農業 80, 87
- 有償 63
- 容器包装リサイクル法 67, 183
- 吉田ふるさと村 80, 85
- よそ者 90
- 四日市ぜんそく 34, 40, 122
- 予防原則 41, 177
- 弱い持続可能性 175, 176
- 四大公害 33
- 四大鉱害・煙害事件 30

● ら 行

- ライト・レール・トランジット（LRT） 195, 204
- ライフ・サイクル・アセスメント（LCA） 132
- 利益団体 18, 201
- 利害調整 127, 224
- リサイクル（Recycle） 53, 67
 - 資源 172
- リゾート開発 83
- リデュース（Reduce） 53
- リユース（Reuse） 52
- 利用価値 153
- ルース・コモンズ 108, 151
- 歴史的環境 143
- 連携 25
- ローカルアジェンダ 21 180
- 六次産業化 85

● わ 行

- わたしの資源 98, 103, 107
- 渡良瀬川 30, 38
- 渡良瀬遊水池（地） 32

地名索引

● あ 行

青森県 99
阿賀野川中流 (新潟県) 33
秋田県 99
足尾町 (現日光市, 栃木県) 38
綾町 (宮崎県) 80, 85, 89
飯田市 (長野県) 149, 157
池田市 (大阪府) 202
伊丹市 (兵庫県) 202
いちき串木野市 (鹿児島県) 198
大津町 (熊本県) 216
沖繩県 37
小樽市 (北海道) 148

● か 行

香川県 57
金沢市 (石川県) 144
鎌倉市 (神奈川県) 143
唐桑町 (現気仙沼市, 宮城県) 103
川口市 (埼玉県) 215
菊陽町 (熊本県) 216
北九州市 (福岡県) 59, 68, 197
京都市 (京都府) 143, 144, 154
熊本県 217
熊本市 (熊本県) 217
熊本地域 216, 228
倉敷市 (岡山県) 40, 42
江東区 (東京都) 56

● さ 行

埼玉県 215
さいたま市 (埼玉県) 215
佐渡市 (新潟県) 82, 87
下川町 (北海道) 126, 135
常磐地域 (福島県) 122
白川村 (岐阜県) 151
神通川流域 (富山県) 33
杉並区 (東京都) 56

● た 行

筑豊地域 (福岡県) 122
豊島 (香川県) 56, 65
天津市 (中国) 173
東京都 45, 169, 181
富山市 (富山県) 194, 205
豊岡市 (兵庫県) 82, 87
豊中市 (大阪府) 202

● な 行

直島 (香川県) 57
長浜市 (滋賀県) 148
名古屋市 (愛知県) 202
奈良市 (奈良県) 143
西粟倉村 (岡山県) 219
西淀川区 (大阪府) 39
沼津市 (静岡県) 45

● は 行

秦野市 (神奈川県) 193
別海町 (北海道) 105

● ま 行

松木村 (現日光市, 栃木県) 30
三島市 (静岡県) 45
水俣市 (熊本県) 35, 38, 42
みやま市 (福岡県) 136, 196, 204
室根村 (現一関市, 岩手県) 103, 114

● や 行

谷中村 (現栃木市, 栃木県) 32, 44
山形市 (山形県) 61
湯布院町 (現由布市, 大分県) 151
吉田村 (現雲南市, 鳥根県) 80
四日市市 (三重県) 34, 42

● ら 行

六ヶ所村 (青森県) 123, 132

● あ行

伊藤修一郎 146
井上真 113
大野輝之 169
オストロム, エリノア 111

● か行

クネーゼ, アレン 68

● さ行

サマーズ, ローレンス 184
柴田徳衛 63

● た行

田中正造 30

寺山修司 5

● は行

ハーディン, ギャレット 108
華山謙 5
原 敬 32
古河市兵衛 32
ホルフォード, ウィリアム 150

● ま行

マルクス, カール 62
宮本憲一 151, 203
陸奥宗光 32



地域から考える環境と経済——アクティブな環境経済学入門
Thinking about Environment and Economy from Local Sustainability

2019年3月30日 初版第1刷発行

著者	やつ 八	き 木	しん 信	いち 一
	せき 関		こう 耕	へい 平
発行者	江	草	貞	治
発行所	株式 会社	有	斐	閣

郵便番号 101-0051
東京都千代田区神田神保町 2-17
電話 (03) 3264-1315 (編集)
(03) 3265-6811 (営業)
<http://www.yuhikaku.co.jp/>

印刷・大日本法令印刷株式会社／製本・大口製本印刷株式会社

© 2019, Shin-ichi Yatsuki and Kohei Seki. Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

★定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-641-15067-6

JCOPY 本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(一社)出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088, FAX03-5244-5089, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。